



町内公民館長会視察研修

世界遺産
富岡製糸場を訪ねて

鶴見 一三(北土井尻町会)



旧富岡製糸場

6月26日(月)午前8時過ぎに大手門駐車場前から富岡製糸場に向けて出発。群馬県というところを思い出しますか? 歴代3人の首相(中曽根、福田、小淵)それにカカア天下とカラッ風が有名です。でも今日は風がなく、暑いぐらいの良いお天気でした。製糸場へ着いて、ガイドの金井さんによる案内で明

治5年ヨーロッパの大規模な器械製糸場が誕生した門を入ると、正面に赤レンガ建築の東繭倉庫左に36mの煙突が見えました。養蚕は、春の年1回で1年分の繭を確保する巨大な倉庫が必要だったそうです。そこで、実業家の渋沢栄一、伊藤博文はフランス人技師のポールブリユナを雇い入れ、製糸の生産に必要な広大な土地と水と石炭が入りやすい事から富岡市を選んだと聞きました。
女工館は女工達の操糸器技術を教える4人のフランス人がいて、1階は食堂、2階は会議室に利用されています。工女400人が働いていた職場器械製糸一部をビデオで作業しているところを見せて頂きました。一個の繭から1、300mの糸が取れるとの事、驚きです。
また、工女の生活は作業時間7時間45分、寝起きは寄宿舎があり食堂、病院、教育を提供されたと言います。

乾燥場は繭を長期保存する前に乾燥させ、カビを発生するのを防いでいたそうです。広さ320坪のブリユナ館はフランス人指導者ブリユナが家族と暮らしていた住居で、帰国した後は寄宿舎や工女に読み書きや和裁等を教える夜間学校として利用されていたそうです。
1時間程度の説明を聞き、歴史を知ることができました。
最後に私事で失礼しますが、実は私は埼玉県加須市の片倉工業東武製糸場の社宅で生まれ、22年間片倉で育ちましたので女工さん(約300人)たちの糸を引く姿は小さい時から見ていました。県は

花いっぱい松本大会が
盛大に開催される

6月17日(土)、花いっぱい運動発祥の地松本で、「第57回全日本花いっぱい松本大会」が開催されました。

松本での全国大会は平成19年以来10年ぶり6回目という事で、全国各地から約1、400人の関係者などが参加されました。花いっぱい運動は、戦後街が荒廃し人々の心にも余裕

を持ってない中で、「社会を美しく・明るく・住みよくする」とし、また花を通じて人々の気持ちを豊かにとの願いを込め、昭和27年4月8日、当時松本市の小学校教諭であった小松一三(さん)さんが始められたそうです。
中央地区では観光客をもてなそうと、松本城西花壇をはじめとする花植え管理に取り組んでおります。平和への願いも込めて、次世代に引き継いでいきたいですね。



参加された皆さん

違いますが同じ片倉の富岡が世界遺産になり、一度見学したく参加させて頂きました。故郷へ帰った様な懐かしい気分になりました。ありがとうございました。町内公民館長会役員の皆様、一日大変御世話になりました。

平成29年度
町会関係役員の皆さんです

町会長 (◎会長・◇新任)
上土町 鈴木秀三郎

緑町 ◎藤村 吉彦

小柳町 望月 益榮

大名町 丸山 貞壽

南土井尻町 出井 健二

土井尻町 栗田 幸一

北土井尻町 宇留賀昭夫

二ノ丸町 小岩井洋之

西堀町 丸山 一雄

六九町 矢ヶ崎良威

今町1丁目 赤羽 郁夫

今町2丁目 渡辺一二三

松栄町 野村 長司

鷹匠町 ◇中田 充

丸の内町 ◇輪湖弥之助

大柳町 ◇中野 敏生

地区団体代表者 (◇新任)

民生児童協議会 青木 康治

ボランティア部会 湯本 信一

健康づくり推進員 青木 光代

子ども会育成会 藤田 久夫

高齢者クラブ 小泉 修平

町内公民館長会 箕輪 徹朗

赤十字奉仕団 ◇高野 和子

体育部 望月 益榮

防災部 川久保 潔

衛生部 高木 健

花植え交流 ありがとうございました

丸ノ内中学校 教頭

今田 利弘

6月8日(木)、本年度も大手公民館の皆様にご来校頂き、造園委員会の生徒と花植え作業をして頂きました。地域の皆様と交流することができ、生徒たちにとって素敵な時間となりました。

今後も地域の皆様と一緒に、生徒たちを育てていきたいと思います。よろしくお願いします。



生徒さんと一緒に

〈百瀬委員長 三年〉

丁寧にご教えて頂いたおかげで、委員全員で楽しく花を植えることができました。全校が花に親しみをもち、花を観ることで明るくなれるように、一生懸命に育てたいと思います。花がきれいに咲くのが楽しみです。

〈平林副委員長 三年〉

昨年に引き続き、地域の方々と花植えの活動をさせて頂きました。冬を越した花が、春先まで元気できれいに咲き感動しました。今年も立派な花になるよう育てていきたいと思えます。

「市制施行110周年 そして未来へ」 講演会を聴いて

百瀬 隆(六九町会)

松本市誕生110周年を記念して6月20日(火)、小松芳郎先生(松本市文書館特別専門員)の講演を大手公民館で聴きました。

信長が非業の死を迎えた本能寺の変直後、小笠原貞慶が深志城を奪還し、松本城と改名したことから松本という名前が誕生したそうです。

筑摩県の誕生、長野県への統合と分県運動を熱く語る小松先生は、松本民族主義者

ここにありという感じでした。

松本城二の丸御殿跡に設置されていた筑摩県庁舎が不審火により焼失、その2ヵ月後に松本は長野県に統合される。なにやらきな臭い陰謀の匂いが?

鳥取県、福井県、富山県などが分県に成功し、元老の多数が中南信の分県建白書に賛成したにもかかわらず、内務省が建白書を却下。ここにも陰謀の手がのびていた?

長元坊 チョウゲンボウ

朝、ラジオ体操が始まる時間まで街路を歩く。歩くコースは、体操が始まるまでの時間とそのときの気分で決める。冬はライトが必要な時間なのに今はもう太陽が昇っていて、空気もきれいで爽やかだ。

良く晴れた日、お城の公園から見える雪をかぶった常念岳、横通岳と槍ヶ岳の姿は何回見ても素晴らしい、見飽きることがない。

去る6月のNHK・BSプレミアムの「新日本風土記」に松本が登場した。松本城はもとより、松本民芸家具や里山辺の須々岐水神社のお船祭

古地図、明治21年の松本大火の新聞記事、歴代松本市長に関する新聞記事などの資料も大変興味深く読ませていただきました。

故郷の歴史を知る貴重な2時間でした。ありがとうございました。



小松 芳郎先生

り、発足当時から松本山雅FCの来歴などが、1時間にわたって放映された。その中で古城会の丸山さんは、「お堀に映る天守閣と白銀の北アルプスを背景にした松本城の絶景」を紹介していた。正に素晴らしい景色で、観光客はこのアングルで盛んにシャッターをきっていた。

しかし、この絶景を創出しているお堀の状態が心配だ。濁っている汚泥が景観を損ねており、観光客の不評を買わないだろうか。全国的に人気上昇中の「国宝松本城」の評価が落ちないようにと願っている。

(T・K)

松本城の野鳥たち

ツバメ



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の内堀で撮影

ツバメはスズメ目ツバメ科ツバメ属に分類される鳥類です。

全長17cmで雄雌同色ですが、尾の長いほうが雄です。空中を飛んでいる虫を餌にしていますので、農薬を使っていなかった昔は稲作の害虫を食べてくれる大切な鳥でした。また、家の軒下に巣をつくったツバメは、雷や火事を防ぐ生き物と信じられ、子どもを生み育てるおめでたい鳥として大切にされてきたそうです。しかし、ヒナを育てている間に親鳥のうちどちらか一方が何らかの理由で欠けると、つがい外のツバメがやってきて育てているヒナを巣から落としてしまう行動も観察されています。